

## 京都から世界へー

人間文化研究機構・総合地球環境学研究所（地球研）は、地球環境問題の解決に向けた学問の創出のための統合的な研究を行う目的で、2001年に創設された大学共同利用機関です。これまで5つの領域プログラム（循環・多様性・資源・文明環境史・地球地域学）で数多くの研究プロジェクトを展開し、得られた成果や知見は、学術的・社会的・国際的に高く評価を受けてきたと自負しています。

平成22年度からはじまる第2期中期目標・中期計画においては、3つの「未来設計イニシアティブ（構想）」を新たに設けます。これに沿って地球環境問題解決への道筋に関する研究成果を発信するとともに、研究シーズを開拓し新たなプロジェクトを企画・推進していきます。

本セミナーでは、今日、人々にとって大変身近であり、かつ極めて重要な地球環境問題である「水」をテーマとすることとしました。すでに本研究所が取り組んできた様々な研究成果を踏まえ、第2期に推進する「未来設計イニシアティブ」の中の「水研究」に焦点を当てて、公水・私水論、越境水問題、食文化と水、宗教と水など、人文学の視点と地域から地球を見る目も重視した「水研究」の方について、日本を代表する水研究者・関係者を招いて発表・討論いたします。

プログラム	
13:30 - 13:40	—— 開会挨拶 立本成文（地球研 所長） 司会進行：渡邊紹裕（地球研 教授）
13:40 - 14:10	<b>基調講演</b>  人と水の未来—多様な知恵をつなぐ地球研の試み The Future of Water and People: RIHN and the challenge of integrative knowledge 谷口真人（地球研 教授）
14:10 - 15:10	<b>パネル発表</b>  伊藤宏太郎（愛媛県西条市長） 沖 大幹（東京大学生産技術研究所 教授） 川戸章嗣（月桂冠株式会社 常務） 竹村公太郎（日本水フォーラム 事務局長） 中庭光彦（多摩大学 准教授・ミツカン水の文化センター） 安成哲三（名古屋大学地球水循環研究センター 教授） (敬称略・五十音順)
15:10 - 16:00	<b>ディスカッション</b>  パネル発表者&谷口真人 司会：秋道智彌（地球研 副所長・教授）  —— 閉会挨拶 佐藤洋一郎（地球研 副所長・教授）



総合地球環境学研究所

Research Institute for Humanity and Nature



2009年10月9日(金) 13:30~16:00

霞山会館 霞山の間

東京都千代田区霞が関三丁目  
2番1号霞が関コモングート西館3階



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構  
総合地球環境学研究所



## 基調講演



谷口真人 (TANIGUCHI Makoto) 総合地球環境学研究所 教授  
人と水の未来  
—多様な知恵をつなげる地球研の試み

地球上の人と水との関係は、災害と恩恵を基本にした「相互作用環」の歴史である。総合地球環境学研究所（地球研）では、この「人と水の相互作用環」を解明するプロジェクトが成果をあげてきた。偏在する水・人とその変化により、水問題は必然的に存在し、人と水との関係は変わり続けている。グローバリゼーションと人口集中のもとで、自然科学としての水だけではなく、文化としての水を再考する必要性が高まっている。公水・私水問題、食文化と水、越境する水と新しい流域概念、宗教と水などを通して、時間と空間を跨いだ水の捉え方や、地域—地球と過去—現在—未来を往還する視点の重要性を指摘する。そして、統合知としての水の理解と、人と水の未来について、多様な知恵をつなげる地球研の試みを紹介する。

## パネル発表

## 伊藤宏太郎

(ITO Kotaro)

愛媛県西条市長

「水資源は売らない」をキャッチフレーズに  
一産・官・学連携のまちづくり

水資源に恵まれた西条市は「水資源は売らない」という強い意志を持ち、水を中心とした地域資源を活かした内発型の産業振興をまちづくり戦略の主軸に位置づけてきた。その構想の柱は、農商工連携をテーマとした産業振興施策である。これらを推進するに当たり、大学や研究機関、キャリア人材が有する「知識・学問」を施策に反映させ、地域に足りないものを補いつつ、産官学が連携して地域課題の解決と地域産業の振興を図るために「フィールド大学事業」を推進し、地域を元気にすることが現在求められている戦略的視点である。



1965年伊予銀行入行。1991年より西条市議会議員、1995年より旧西条市長を3期務め、周辺自治体との合併を経て、2004年より西条市長に就任（現在2期目）。

地方自治体が自らの知恵と工夫をもって地域づくりを進め、「自立と自活」する「快適環境実感都市」の実現に向けて市政のトップとして戦略的に取り組んでいる。

## 沖 大幹

(OKI Taikan)

東京大学生産技術研究所 教授

## 世界の水問題と分野統合的学術研究

世界の水問題の解決には、水循環の的確な把握、将来推計、気候変動の影響評価といった自然科学的な知識と、人口増大や経済発展に伴う水需要の増大といった社会科学的知識、そして水問題に対してこれまでいかに人々が適応してきた今後どう問題を解決していくとするのか、といった人文科学的知識が必要である。こうした学際的な研究を的確に効率よく推進する場を提供することが地球研の使命である。



東京大学生産技術研究所教授、博士（工学）。専門は水文学（すいもんがく）。国土審議会・社会資本整備審議会専門委員。気候変動に関する政府間パネル（IPCC）第4次報告書主要執筆者。2008年には日本学士院学術奨励賞等を受賞。監訳に『水の世界地図』（丸善、2006年）、共著に『国土の未来』（日本経済新聞社、2005年）等。

## 川戸章嗣

(KAWATO Akitsugu)

月桂冠株式会社

## 京都・伏見の酒造りと地下水の保存

平安朝の昔から伏見の水が良いといわれ、名水として名を馳せた七つの井戸がありました。豊臣秀吉が伏見城を築城する時、水質の良さにより京都から伏見に酒屋を呼び寄せ、酒造りを行ったことが伏見酒の始まりです。明治以降、技術の発展と品質向上により、伏見酒は飛躍的に伸長しましたが、一方近代化に伴う建設工事などにより、地下水を汚染させるような工事が計画されてきました。汚染の恐れがある場合、酒造メーカーは計画の変更や修正等を要請し、地下水を今まで守り続けてきました。



昭和49年 京都大学農学部農芸化学科卒、昭和49年 大倉酒造株式会社（現 月桂冠株式会社）入社、昭和57年 大倉酒造（株）大倉酒造研究所（現月桂冠総合研究所）、平成10年 月桂冠（株）総合研究所 所長、平成16年 月桂冠（株）総合研究所 取締役研究所長、平成21年 月桂冠（株） 常務取締役 製造副本部長。

## 竹村公太郎

(TAKEMURA Kotaro)

日本水フォーラム事務局長

## 気候変動と日本の役割

— 地球のセンサー日本列島 —

21世紀、地球温暖化は人類を襲ってくるのか？この地球温暖化で重要な視点は、過去から未来にかけての長期的、広域的、かつ客観的で信用できる観測データの有無である。その観測を引き受けるのが「日本」であり、日本列島は地球のセンサーである。

厳しい将来を迎える地球上の人類にとって、地球のセンサー・日本列島は貴重な土地である。地道に観測を継続していく日本人の任務は大きい。



（財）リバーフロント整備センター理事長、首都大学東京客員教授、博士（工学）。東北大学土木工学科修士修了後、建設省に入省。宮ヶ瀬ダム工事事務所長、中部地方建設局河川部長、近畿地方建設局長を経て国土交通省河川局長。退官後04年より現職。著書に『日本文明の謎を解く』（清流出版、2003年）、『土地の文明』（PHP研究所、2005年）、『小水力エネルギー読本』（オーム社：共著、2006年）等。

## 安成哲三

(YASUNARI Tetsuzo)

名古屋大学地球水循環研究センター 教授

## アジアの水はどうなるか？

モンスーン気候に支配された東・東南・南アジアは豊富な雨により水には困らないように思われてきた。しかし、過去20年の日本を中心とする気象学・水文学研究者による研究は、アジアの水資源が気候変動や人間活動により、大きく変動することが明らかになった。進行しつつある「地球温暖化」は、日本を含めたアジアの水資源を危うい状態にする可能性もある。私たちは、今後の持続的な水資源・水利用を可能にする人と自然の相互作用環を考えいく必要がある。



名古屋大学地球水循環研究センター・教授。同 地球生命圈研究機構長、グローバルCOEプログラム「地球学から基礎・臨床環境学への展開」拠点リーダーを兼任。1996年から10年にわたる「アジアモンスーンエネルギー・水循環研究観測計画(GAME)」のリーダーも務めた。専門は気象学・気候学、地球環境学。